

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	日本とアメリカをつなぐ架け橋のアメリカ大使館について
報告者	国際経営学部国際経営学科1年 一圓梨亜
調査日	11月25日
調査先	アメリカ大使館
担当CVS	加藤真帆 熊崎希美 丸山航汰
授業科目/学部 企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数 (学年)	25名
調査趣旨・目的	アメリカと日本の国交を結ぶ機関の一つであるアメリカ大使館に実際に赴き、事前に勉強したことを踏まえながら業務内容や働き方についてさらに理解を深める。
調査結果	<p>1. はじめに</p> <p>アメリカ大使館に勤務している三橋乃佑子様、シルバ智子様、末吉美彩希様にアメリカ大使館での業務内容やアメリカ大使館に就職された経緯、御三方のバックグラウンドについてお話を伺うことができた。その後、私たち学生からの質問にもお答えしていただき、アメリカ大使館への理解を深めるだけでなく、今後についてのアドバイスなどを通して視野を広げる貴重な機会となった。</p> <p>2. 業務内容について</p> <p>お話をして下さった御三方のうちシルバ智子様、三橋乃佑様は広報文化交流部という部署に所属されていて、末吉美彩希様は総務部という部署に所属されている。まず、広報文化交流部では実際に日本にいる人とアメリカにいる人とがつながりを持つ機会を積極的に作り、運営を促進するまたは支援するというような業務を担っている。具体的な例を挙げると、留学フェアを開催するといった、日本人がもっと身近に留学という機会を感じられるようにしている。お話を伺う中で、一昔前までは、東京などの都会に住んでいてお金がなければ留学に行けないと思っている人が多かったが、その固定概念を取り除いて、もっとたくさんの人に留学に行ってほしいという願いも込めて、留学フェアを開催していると話して下さった。次に総務部では、主に大使館内部の人を支える業務を担っていて、さらにはアメリカの政治家などの要人が来日する際に、電話で空港やホテルを手配するというような重要な仕事も担っている。また、生徒から「アメリカ大使館で働くうえで、どれくらいの英語の能力が必要ですか」という質問が上がった。回答としては、働く部署によって英語のスキルは異なる。例を挙げると、大使の横で通訳する業務は即時に的確な単語で通訳するスキルが必要となる。一方で、メールなどのツールを通して英語でコミュニケーションを図るような業務では前者ほどのスキルは必要ではない、重要なポイントとして、アメリカ大使館では</p>

アメリカから派遣されている国家公務員と日本で雇用されている現地の人で構成されている。従って、上司と英語で意思疎通ができる相当の英語力が必要とされる。

### 3. 今後について

御三方ともアメリカ大使館に就職される以前に海外の留学経験があり、英語を活かした仕事がしたくこの仕事に就いたそうで、実際に留学して感じたことも含め私たち生徒の将来についてアドバイスを下さった。日本の文化には、遠慮の文化がある。例えば、遠慮して思慮深く見守ることがある。一方で、海外では遠慮せずに思っていること・考えていることを積極的に言葉にすることが尊重され、自分の興味関心のあることに失敗を恐れず、積極的に取り組みアプローチする姿勢が評価される。お互いの文化に優劣は無いが、これからのグローバル化に伴い自分の意見を論理的に組み立て言葉にすることはとても重要である。

### 4. おわりに

今回の企業訪問を通して、アメリカ大使館という組織について学ぶだけではなく、働いている方の経験を伺うことで今後の人生におけるものの見方や価値観を広げることができた。この貴重な機会をこれからの自分のキャリア形成や成長につなげていきたい。